

止む無き直前横断に断！

直前横断については、その撲滅のために労使間で議論してきました。関西新幹線サービックの中にあって唯一線路横断が発生する鳥飼事業所において、相次ぐ直前横断に対して、教育・訓練、点呼時の唱和や人感スピーカーなど様々な対策が講じられてきましたが、11月30日にまたもや直前横断が発生しました。言うまでもなく直前横断は、触車死亡事故に繋がる重大なインシデントで、抜本的な対策を講ずる必要があります。組合は、12月10日、以下の設備要求を申し入れました。

抜本的な設備を要求！

1. 出庫時に地上信号が進行現示した時、警報機（赤色点滅）と共に、警報アラーム（○番線電車が出庫します）が発報するようにすること。
2. 入庫時に列車が洗浄機付近に接近した時、警報機（赤色点滅）と共に、警報アラーム（○番線電車が接近します）が発報するようにすること。
3. 各番線に遮断機を設置し、上記1及び2の条件時に動作するようにすること。

一方で、直前横断を防ぐのは、番線移動をしないことも対策として考えられます。これはサービックだけでは不可能で、JRとも連携する必要があります。入庫時の番線指示（JR）や組み割り（サービック）など、設備改善がされるまで、工夫するように求めていきます。

